

『防災教育を中心とした学校安全フォーラム』を開催しました(2016/11/24)

テーマ：防災教育、学校安全、国際交流、防災教育国際協働センター
 場所：東京エレクトロンホール宮城

2016年11月24日、宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所 防災教育国際協働センターの主催、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターの共催により、東京エレクトロンホール宮城にて「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」が開催されました。フォーラムには、防災教育・学校安全に関わる教育関係者、研究者、実践者等、約700名が参加しました。

本フォーラムでは、宮城県教育委員会の高橋仁教育長からの挨拶に続き、防災教育国際協働センターの佐藤健センター長（情報管理・社会連携部門）より開催の趣旨説明が行われました。その後、世界各国との防災交流中継においては、小野裕一教授（同）から「世界津波の日」をはじめとした世界の防災に関する動向について紹介があり、その中で今村所長によるビデオメッセージも上映されました。また、アチェ津波博物館との連携協定等のためインドネシアを訪問していた桜井愛子准教授（同）、柴山明寛准教授（同）が滞在中のアチェ津波博物館と、世界16カ国から「世界津波の日」高校生サミット宮城スタディツアーのワークショップ会場である石巻グランドホテル（石巻市）と、東京エレクトロンホール宮城（仙台市）の3会場をインターネットテレビ会議で繋ぎました。アチェ津波博物館から2004年インド洋大津波を経験したバンダ・アチェ市の2名の高校生（リサさん、ユルナイリスさん）による津波避難と2004年大津波の経験の伝承の重要性を、三会場で共有することができました。インターネットテレビ会議の通訳にあたっては宮城教育大学の小田隆史特任准教授（防災教育国際協働センター共同研究員）に、通信接続にあたっては、土屋修産学官連携研究員（同）、小野円技術補佐員（同）の協力を得ました。

特別講演では、熊本大学の鈴木克明教授から「教科学習につながりを持たせ、学校を地域に開くカナメとして防災教育をデザインする」と題する講演が行われ、インストラクショナルデザインの観点から今後の防災教育の実践と高度化に向けた示唆を得ることができました。また、学校現場での防災教育、学校安全の実践事例報告や、校種別分科会とパネルディスカッション「防災教育の一層の充実を目指して―地域との連携、防災教育の着実な実践による～」も行われました。最後に、宮城県仙台南高等学校音楽部合唱団による「わせねでや」の特別合唱も披露され、改めて震災教訓を伝えていくことの責任と重要性を参加者で共有することになりました。



今村所長のビデオメッセージ



小野教授のプレゼン



アチェとのテレビ会議映像



フォーラム会場



鈴木克明教授の講演



展示発表と情報交流

文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）